

平成30年度第1回

市民動物園会議

会 議 録

日 時：平成30年4月4日（水）午後2時開会
場 所：円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○事務局（加藤円山動物園長） 皆さん、こんにちは。

本日は、年度初めのお忙しい中、市民動物園会議にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

前は11月13日でしたので、約5カ月がたっております。

市民動物園会議は、ご存じのとおり、幅広いご意見をいただき、動物園をよくしていこうという趣旨の会議です。先ほども申し上げましたとおり、全員のご出席となりました。

きょうは、11月のときにも言いましたけれども、円山動物園のこれからを考えるビジョンについてご意見をいただくことになっております。

ご審議に入っていただく前に、4月から動物診療担当課長が交代していますので、この場で挨拶をさせていただきます。

○事務局（黒川動物診療担当課長） 4月より動物診療担当課長で参りました黒川でございます。どうぞよろしく願いいたします。

私は、保健所の動物管理センターから参りましたけれども、動物園では初めての着任になります。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（加藤円山動物園長） よろしく願いいたします。

きょうは後半に長い時間がかかりそうな議題もございますけれども、ぜひともよろしく願いいたします。

それでは、早速、議事に入らせていただきます。

金子議長、よろしく願いします。

2. 議 事

○金子議長 それでは、平成30年度第1回市民動物園会議を開催させていただきます。本日は、お忙しい中をお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

今、園長からお話がありましたけれども、きょうの議題は、次第に書かれておりますとおり、平成29年度来園者状況及び平成30年度予算について、新着動物等について、それから、多分、これが一番時間がかかるかなと思うもの、あるいは、皆さんからいろいろな意見をいただきたいと思っておりますのが、円山動物園基本方針「ビジョン2050」の策定についてです。

きょうも忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いをいたします。

それでは、1番目の平成29年度来園者状況及び平成30年度予算について、事務局からご説明をお願いします。

○事務局（神経営管理課長） それでは、資料1-1をごらんください。

平成29年度の来園者数についてです。

資料の左の表①の月別来園者数の29年度の欄の合計にありますとおり、年間で81万

3, 047人でした。28年度は79万1, 024人でしたので、前年度と比べ、約2万2, 000人の増、率にすると2.8%の増となっております。

来園者数が増加した理由としましては、きょうの道新の記事にもありましたが、ことしの3月13日にオープンしましたホッキョクグマ館の影響と考えております。

次に、右の表③の平成30年3月来園者数という表の一番下の欄をごらんください。

昨年3月の来園者数が4万4, 396人だったのに対し、ことしは8万5, 760人ということで、2倍弱にふえております。また、ホッキョクグマ館がオープンした3月13日以降、黄色でマーカーをしておりますけれども、土・日、平日とも、多くのお客様にご来園をいただいております。

次に、平成30年度の予算についてです。

資料1-2をごらんください。

平成30年度の歳入につきましては、一番上の欄にありますとおり、合計2億7, 800万円を見込んでおり、その主な内訳として、入園料が2億4, 200万円、売店使用料が1, 000万円、市民や企業からの寄附金ということで1, 200万円、ネーミングライツや入園券の裏にある企業広告等、広告料で350万円を見込んでおります。

入園料につきまして、29年度の予算と30年度の予算を比べると2, 000万円減っておりますが、こちらの理由としましては、29年度の予算を立てたときに、この数字が年間100万人を目指したときのお金を払って入られる来園者数から推計したものでありまして、実態とは乖離していたからです。

そうしたこともあって、30年度予算の入園料につきましては、過去5年間の平均から2億4, 200万円とさせていただきます。ですから、実態に合った予算となっております。

ただ、ホッキョクグマ館のオープンにより来園者がふえるということですので、来年度の決算ではこれ以上のものが見込めるのではないかと期待しております。

次に、支出についてです。

大きく二つあり、上に動物園運営管理費、中段に動物園整備費とあります。

まず、動物園運営管理費の6億2, 500万円についてですが、こちらは飼育・展示動物や施設の維持管理、それから、動物園運営に要するいろいろな経費のほかに、野生動物復元事業費が含まれております。

次に、動物園整備費の15億6, 300万円ですが、こちらは園内の獣舎などの小規模整備、高齢者や障がい者に優しい園路整備、正門にロータリーの整備、また、獣舎に観察用の監視カメラを設置しましたので、そういった経費が含まれており、合計3億900万円となっております。

また、動物園基本計画事業費であります。こちらはアジアゾウの導入、ゾウ舎建設費を合わせ、12億5, 400万円となっております。

以上から、支出の合計は21億8, 800万円で、29年度と比べて13億800万円

の減となっております。

以上でございます。

○金子議長 それでは、最初にご説明いただきました資料1-1の来園者数状況について、何かご質問等がございますでしょうか。

○森田委員 簡単なことをお聞きします。

65歳以上が無料の入園者でありますけれども、その人数は把握されていますか。

○事務局（神経営管理課長） 65歳以上の札幌市民は無料ということで、数字は全て把握しております。

○森田委員 それで入った人数がこれですか。

○事務局（神経営管理課長） 子ども含め、無料の方と有料の方がいらっしゃいますが、それら全てがこの数字の中に含まれております。

○森田委員 多分、65歳以上の入園者数は毎年ふえてまいりますよね。絶対にふえていくと思うのですが、それに伴って、ほかの経費などがかかってくると思うのです。

簡単に言いますが、将来的にはいろいろとご考慮いただく時期が来るのではないかと簡単に申し上げまして、終わります。

○事務局（神経営管理課長） 有料か無料かという話をさせていただきますが、全体の大体55%が有料で入られているお客様で、残りの45%弱は子どもやお年寄りを含めた無料の方となっております。

○金子議長 そのほか、来園者に関しまして何かございますでしょうか。

○矢野委員 雪まつり期間中の8日間は1万1,000人と聞いているのですけれども、売店の売り上げはどれだけ貢献したのですか。

○事務局（神経営管理課長） 売店の売り上げについて、各店から幾ら売り上げたのかについてはお聞きしていないところです。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

○吉中委員 入園者数は1年間で2.8%の増で、その主な理由はホッキョクグマ館オープンだという説明でした。ただ、①の表で月別に見ると、伸びている月もあれば減っている月もありますよね。

例えば、5月、7月、9月は割と大きく入園者数が減っているのですけれども、この理由等について何かお考えになっていることはございますでしょうか。

○事務局（神経営管理課長） 平成28年度と比べるとすれば、天候だと思います。例えば、土・日のお客様が多く来られるときに雨が降れば減りますし、ゴールデンウィークも同じかと思います。

27年度はホッキョクグマのリラの子もララが生まれたので、そういったことで98万人となっておりますけれども、単純に28年度と29年度の差であれば天候かなと分析しております。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

○後山委員 先ほど来場者の中で55%が有料ということだったのですけれども、有料の方々の男女比や年齢層など、データにしているものはあるのですか。今はないと思うのですけれども、それを分析して、今後、30歳台が多いのであれば、どこどこにチラシを配布するとか、30歳台が見ているところに広告を打つという方法もあると思うので、そうしたデータをつくられたほうがいいのではないかと思います。

○事務局（神経営管理課長） 来園者の属性につきましては、動物園では正確に把握していません。ただ、今年度、いろいろな調査をして、こういった傾向にあるのか、年齢層はどうか、どちらから来ているのか、さらには、外国人の方が5%弱おりますが、その方々はどこから来ているのかなど、属性をしっかりと把握したいと考えております。

今お話がありましたとおり、それがわかるとターゲットを絞って広告なり戦略が打てますので、そういったことをこれからやっていきたいと思っています。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 次に、資料1-2の平成30年度予算等概要についてご質問等がございましたらお願いいたします。

○高井副議長 先ほど入園者の話の中でホッキョクグマ館の影響が大きいとあり、喜ばしいことだと思います。ただ、知りたいことは、建物を建てた後のソフトウェアの部分でどのようにリピーターを引きつけるかです。

ナイトズーなど、いろいろなイベントをやっていますし、パンフレットなどもいろいろと工夫はされていると思いますが、それは費用の中ではどこに入るのでしょうか。広報や各種イベントは経費なのか、教育普及費なのか、観光誘客事業費なのか、いかがでしょうか。

○事務局（神経営管理課長） 広報などの経費につきましては、動物園経営費の中に入っております。

○高井副議長 それでは、教育普及推進費というのはどういうものですか。

○事務局（神経営管理課長） これは、職員による子どもたちに向けて教育普及のための取り組みがありまして、そちらになります。ですから、イベントというよりは環境教育を推進していくためのお金という位置づけになっております。

いろいろな方々を対象にするものは経営費となります。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

○事務局（神経営管理課長） 済みません、間違いました。

教育普及推進費についてですが、動物園では小学校や中学校に向け、A4判の動物園だよりを年4回発行しており、その企画・印刷費や郵送料で300万円となりまして、それ以外が経営費となります。

なお、小学校については、子ども一人一人に当たります。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

○吉中委員 この後に話題になりますポスト基本構想のところ、今後の動物園の大きな役割として保全という話が出てくるかと思うのですけれども、歳出に関して、野生動物復元事業費があり、140万円で、10万円の減、具体的には種の保存推進費だと思います。

ここでは具体的にどんなことを考えていらっしゃるのか、教えていただければと思います。

○事務局（神経営管理課長） 今年度は、ニホンザリガニの繁殖をやっています、その関係の費用です。また、コウモリ調査をやっています、そういったものに関するものです。さらには、ザリガニやコウモリに関連し、講演会や特別展をやるための費用です。

ですから、もっとしっかりやっていくとなれば、この金額の中ではとてもできないわけですし、予算も含め、それはこれからの課題かなと思っています。

○土田委員 予算について、資料でご説明いただいたとおりだと思うのですが、これに付随する事業計画はおありなのでしょうか。もしあるのであれば、平成30年度は、ゾウの話とは別に、29年度とは違って個別に重点的に取り組むべきことがあるのか、そうしたことについて教えてください。

○事務局（神経営管理課長） 予算要求をする際は、こういったことをやっていきますということで、それに基づいてお金がきます。

そこで、今年度は特別にというものとなると、例えば、ホッキョクグマ館がオープンしましたので、それに付随していろいろな活動をしていきたいと思っていますけれども、具体的に、1年間通してというようなものはありません。

○事務局（加藤円山動物園長） 残念ながら、園全体の事業計画は切れている状態なのです。前の基本構想で持っていた5年間の計画が終わって、その後の計画の策定が先送りされ、今、基本のところから練り直そうとなっているところであります。

ただ、札幌市全体の計画としてアクションプランというものがあって、その中で動物園については、ゾウ舎をつくり、ゾウを入れましょうということがあるので、今はそちらのほうで回っている状態です

後ほどご説明しますが、ビジョン2050ができれば、平成31年度からの5年間の実行計画をこれから立てていくことになるかと思っています。

○金子議長 私から監視カメラについてお聞きしたいと思います。

これは段階的にやっていくのではないかと思うのですけれども、今はどういったところにつけられているのですか。

○事務局（山本飼育展示課長） これまで、カバ・ライオン館とキリン館とカンガルー館の3カ所で、合計30台ほどを設置しており、今年度は、60台ほど、ほかの獣舎にもつけていくことにしております。

○金子議長 1カ所についても何方向からかになるようにしているのですか。

○事務局（山本飼育展示課長） そうですね。広い獣舎であれば2方向からということもありますし、1獣舎1カ所というところもございます。

○金子議長 今後は小さい動物舎にもついていくのですか。

○事務局（山本飼育展示課長） そうですね。割と大き目のものを中心にやっていきますけれども、獣舎にはほぼつけていきたいと考えております。

○金子議長 実際に専門医が映像を見るのですか。

○事務局（山本飼育展示課長） そうですね。裏にモニターがありますので、そこでの監視ができます。ただ、まだつけたばかりということもありまして、使い方も含め、どういうふうに使っていくかは考えていきたいと思っております。

○金子議長 それは、データとして保存され、消さないのですか。

○事務局（山本飼育展示課長） 多分、1週間ぐらいは残りますが、上書きになっていくシステムになっています。

○金子議長 うまく蓄積しておけば、大学の学生の卒論のテーマになったり、どういうふう動くかを見るためのデータにもなりそうな気がします。

○事務局（山本飼育展示課長） そうですね。監視カメラといいながらも、観察カメラという意味合いもありますので、何かに使えればいいなと思っております。

○金子議長 ぜひ蓄積するような方法を考えていただければと思います。

それでは、ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 それでは、議題2の新着動物等についてお願いいたします。

○事務局（山本飼育展示課長） それでは、資料2をごらんください。

まずは、昨年11月から今年の3月にかけての主な転入・転出動物の状況についてご説明させていただきます。

先日オープンしたホッキョクグマ館で展示するゴマフアザラシを今年の1月から2月にかけて3頭ほど導入してございます。現在は1月に男鹿水族館からやって来たもうすぐ1歳になるあずきという個体のみをホッキョクグマ館のメインプールで展示しています。おびひろ動物園からやって来ました雌のマシロ、鴨川シーワールドからやって来た雄のギンという個体は、現在、メインプールに出す訓練をしておりますので、展示までもうしばらくお待ちいただきたいと思います。

次に、搬出動物についてです。

ユキヒョウの雌リーベを繁殖目的で浜松市動物園に貸し出してございます。リーベは14歳で、ネコ科の動物としてはかなり高齢の部類ではあるのですが、健康状態も問題なく、良好な発情も来ていることから、今回、日本動物園水族館協会のユキヒョウ管理計画のもとに移動することとなりました。浜松市動物園でもぜひ子どもを授かっていただきたいと思っております。

また、レッサーパンダの雄の3歳になるホクトですが、こちら繁殖目的のために甲府市遊亀公園附属動物園へ移動してございます。新たな場所でたくさんの子孫を残してくれることを期待しております。

次に、中段の主な死亡動物の状況です。

6年前に秋田市の大森山動物園から借り入れていたイヌワシの雌が昨年11月に死亡しています。同年4月には繁殖に成功して、よいペアを形成していただけに、非常に残念な結果となってしまいました。

次に、主な繁殖動物の状況です。

前回の市民動物園会議でハイイロカンガルーのもう1頭の雌にもおなかの袋に赤ちゃんがいるという報告をさせていただきましたけれども、その雌のエイミーの赤ちゃんが11月20日におなかの袋から顔を出しております。名前をアトラスと名づけております。これで3頭いる全ての雌に赤ちゃんがいることになりまして、カンガルー館はカンガルーの親子さながらに親子連れで大変にぎわっております。

また、は虫類・両生類館ですけれども、アメリカドクトカゲが去年の7月に産んだ4個の卵のうち、1個が約4カ月後にふ化に成功しております。この種の繁殖は非常に難しいとされている中、飼育管理上の工夫を凝らした結果、日本の動物園、水族館では初めてとなる繁殖事例となりました。この子どもは、現在、は虫類・両生類館のセンターラボで展示公開してございますので、皆様には、ホッキョクグマだけではなく、アメリカドクトカゲもぜひ見ていただきたいと思っております。

以上になります。

○金子議長 それでは、ご意見はいかがでしょうか。

○森田委員 今出ましたアメリカドクトカゲについてです。

私は素人で、わからないのですが、これを見るために私の友人は十勝の広尾から見に来たのです。私の家内も爬虫類が好きなだけけれども、かなり珍しい品種ということですね。日本の状況については聞いたのですが、このトカゲのことについてももう少しお聞きしたいと思います。

それから、今日の道新に赤ちゃんの誕生といった話題が少なかったということが出ていたのです。でも、ごらんになった方もいると思いますけれども、入場券にミーアキャットの赤ちゃんの写真が出ていますよね。ですから、今後は、ミーアキャットだけではなく、そういうことをどんどんPRしていけばと思います。

知っている人はいいのですが、アメリカドクトカゲについては、すごく珍しいということなので、どんどんPRしてください。

○事務局（山本飼育展示課長） 了解いたしました。これから大々的にPRしたいと思います。

○金子議長 そのほかにいかがでしょうか。

○武田委員 冬のうちに何回も来て、ホッキョクグマ館を見せてもらいました。熊とアザラシの絡みを私の息子はすごく楽しみにしていたのです。ただ、もう少しアザラシがいると思ったというのが最初の印象だったと子どもが言っていました。トレーニングや体調もあろうかと思うのですが、3頭を入れることは難しかったのでしょうか。

小さいかわいいアザラシ1頭が泳いでいたのですけれども、もう2頭ぐらいいたらよかったなと思ったのですが、そういうことはやはり難しいものなのですか。

○事務局（山本飼育展示課長） 今いる男鹿水族館から来た子は、既にトレーニングを済ませていましたし、手から餌も食べてくれる子だったのです。おびひろ動物園から来た子は、今、バックヤードにいますけれども、一生懸命トレーニングをしている状況です。鴨川シーワールドから来たギンという個体は、もう手から餌を食べてくれる状態になっているので、もう間もなく皆様の前に出せるかなと思っています。なるべく早く出したいと思えますけれども、動物次第ということもあります。

○武田委員 すごく楽しみにしています。

○事務局（加藤円山動物園長） 動物はどういうふうになるかというのは来てみないとわからないのです。本当はみんな一緒に出してあげたかったのだけれども、ご飯を食べてくれないと困るし、呼んだときに来てくれないと行ったきりになってしまうのです。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

○高井副議長 森田委員と武田委員の言ったことに追加したいと思います。

毎回、転入・転出動物については楽しみに拝見しているのですが、どんな動物が来たか、どんな動物が産まれたかというのはかなりのアピールポイントになると思うのです。

ホームページを見れば載っているのかもしれませんが、入り口などに大々的に出しますと、新しい施設ができたから人がふえるというだけではなく、行ったら何か新しいことがあるということがわかるようになるのかなと思う次第です。

入場者というのは、広いから、どこから回ろうかと地図を見ながら考えるところから始めると思うのです。そのときに、イベントがあるとか、餌やりの時間があるとかがわかると、では、そちらから回ろうかと考えるわけです。そこに、新着動物がいる、あるいは、子どもがいるという情報が地図の横にあると、来るたびに新しいものがあるというふうなことになるのかなと思います。

○金子議長 ホームページには逐一掲載しているのですか。

○事務局（神経営管理課長） 全てではないですけれども、できるだけホームページやツイッターで出すようにしています。ただ、獣舎の前への張り出しは全てできていないわけではありません。

ただ、今、高井副議長からありましたように、例えば、入り口のところでそういったことがわかるようには考えたいと思います。

地図となると、手づくりで別につくらなければいけないのです。

○高井副議長 地図の横にあるだけでいいのです。

○事務局（神経営管理課長） それぞれの案内の地図のところに、入りましたと出すようなイメージですね。

手づくりでやれるものは頑張ればできる範囲かと思えます。

○森田委員 広報さっぽろの形が変わり、民間の業者も参入してやるような話を聞いたの

ですね。ふりっば一の関係も広報さっぽろに携わるというような話を聞いたのです。これは、先ほど言った入場券の話もそうだと思います。

なぜ私は気がついたかという、私も全然わからなかったのだけれども、小さい子どもに、おじさん、ここに赤ちゃんが出ているよと言われたからなのです。

券を毎回違う印刷にするのは大変かもしれませんが、時々レイアウトを変えるなど、いろいろな工夫をして、今、高井副議長もおっしゃったように、いろいろなPR方法を模索していただければと思います。

ホームページもいいのですが、ホームページは高齢者はなかなか見ないのです。アイデアとして、新しい動物や繁殖したトカゲなど、入場券に載せてPRするなどもお考えいただいて、PRを積極的にやっていただければ、動物園の入場者数がふえていくのではないかと考えましたので、よろしくお願いします。

○事務局（神経管理課長） 新しい動物が来したり誕生したりすると、それが来園者につながるというのは確かにそうですので、できるだけ発信はしっかりやっていきたいと思っております。

○金子議長 それでは、議題2の新着動物についてはよろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 それでは、これからお時間のかかる検討になるかと思っておりますけれども、札幌市円山動物園ビジョン2050について、事務局からご説明いただきたいと思っております。

○事務局（高橋調整担当係長） それでは、ビジョン2050について、経営管理課の高橋からご説明させていただきますので、よろしく願いいたします。

前回のこの場では、基本構想の名称をポスト基本構想と銘打ってございましたけれども、これは仮の名称として使っておりました。現在、まだ正式決定ではございませんが、これまでの検討部会や職員プロジェクトでの議論を経まして、円山動物園基本方針ビジョン2050という名称となっております。

後ほどご説明いたしますけれども、このビジョンでは生物多様性の保全が一つの大きな柱となっております。

この生物多様性の保全に関して、世界的な流れとしましては、2010年名古屋市で開催されました生物多様性条約の最高意思決定機関での条約国会議において2050年までの長期計画が示されているほか、国内においては、その達成に向け、2050年を中期目標年次し、2012年に国家戦略が立てられております。こうしたことを踏まえまして、円山動物園でも目標年次を2050とし、ビジョン2050と命名いたしました。

続きまして、ビジョン2050策定に係るこれまでの取り組みについてです。

資料3-1をごらんください。

これまでの取り組みを一覧としております。

まず、検討部会についてです。この会議の委員でもいらっしゃる吉中委員に委員長をお務めいただき、前市民動物園会議委員の佐藤様など、6名の委員のほか、オブザーバーと

して金子議長にご出席いただき、全5回を開催してまいりました。

次に、職員プロジェクトです。去年の10月から毎週木曜日に開催し、3月22日まで21回開催いたしました。時には4時間にも及ぶ議論を行ったこともございました。

次に、円山動物園に期待することなどを来園者に聞くための来園者アンケートの実施についてです。結果は書いていませんけれども、動物園に期待することとして、動物に関すること、好奇心を育てることなど、子どもに関する回答割合が高かった一方、イベントに参加したいとかイベントに期待しているとの回答は低いという結果が出ました。また、回答者の属性としまして、女性が6割、市内にお住まいの方が6割といったことも見られました。

次に、動物園に来園しない方からも意見を聞くために実施した市民意識調査についてです。過去5年以内に動物園に来園したことがあるとの回答が3割ありました。一方で、動物園に行かない理由として、子どもが大きくなったからという回答が5割近くあるということがわかりました。

また、入園料の話が先ほども出ていましたけれども、入園料600円については4割、年間パスポート1,000円については7割の方が安いのではないかという印象をお持ちということもわかりました。

さらに、どのような動物園になってほしいかという問いに対しては、やはり札幌市民に親しまれるような動物園であってほしいという回答が多く見られ、約7割ありました。

次に、子どもワークショップについてです。子どもたちから直接意見を聞くため、子どもワークショップを開催いたしました。園内を散策したのですが、密輸動物を動物園で引き取って飼育しているという現状を目の当たりにし、こうした動物たちを少しでも減らすためにもっと動物園を身近に感じられる取り組みが必要ではないかといった言葉が子どもたちから出ておりました。

次に、大人から意見を聞くための大人のワークショップについてです。このワークショップ参加者募集に当たっては、動物園に来ない方からも意見を聞くため、住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民2,000人に参加申込書を送付することによって参加を募りました。ここでは、動物園におけるハズバンダリートレーニングや種の保存などの取り組みについて、すばらしい取り組みであるといった意見があった一方、先ほど情報発信ということも出ていましたけれども、そういった取り組みをもっと情報発信すべきではないかといった意見も多く聞かれました。

最後に、直近の3月11日、今後の円山動物園の運営には、これまで以上に世界や日本、とりわけ道内の動物園や水族館との連携強化が必要となる、そしてまた、法学の観点からも現在の動物園の課題について考える必要があると考え、円山動物園シンポジウムを開催いたしました。

参加者からは、動物園の動物を守るための法整備がないことを初めて知った、また、道内の動物園や水族館はもっとそれぞれの特徴を生かして運営すべきではないかといった声

が聞かれました。

以上がこれまでビジョン2050を策定するに当たって行った取り組みです。

○金子議長 今、策定に伴う取り組みについて、経緯とアンケート調査の概要等についてご説明いただきましたけれども、何かご質問等はございますでしょうか。

アンケートの結果は別な報告でまとめるのですか。

○事務局（高橋調整担当係長） 市民意識調査のアンケート結果については、市民の声を聞く課のホームページで3月28日に公表されております。また、来園者アンケートの結果につきましては、検討部会でお示しいたしました資料を動物園のホームページで公表しております。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

○森田委員 来園者アンケートでは、40%の方が600円の入園料は安いとおっしゃったということですが、これは真剣に受けとめたほうがいいかと思います。

入場料は安いほうがもちろんいいのですけれども、先ほど言ったこととの関係で、私も含め、これからは65歳以上の無料の人数がふえてくるわけです。確かに自治体の動物園ではありますけれども、入園料についてはこれからの課題になると思います。

今、結論についてどうこうと申しませんが、このことは常に考えないといけないと思います。2050年のビジョン全体のことも大切ですが、存続していく、継続していく、スパンをきちんと守っていくということを考え、全体の財政はともかく、行政側の皆さんとして心の隅に置いておいていただければと思います。

また、我々市民としても、全体の円山動物園の動物の福祉のことが第一ではあるのですが、入園料のことも置き去りにせず、真剣に考えていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 それでは、本体のご説明をお願いいたします。

○事務局（高橋調整担当係長） それでは、本体のご説明に移らせていただきます。

資料3-2のビジョン2050と書いてあるものです。

これは、これまでの検討部会や職員プロジェクト、あるいは、今ご説明したさまざまなアンケート等の意見をもとに作成したものであり、まだ完成形ではございません。後ほどご説明いたしますけれども、今後、園内でさらに議論を行うとともに、市役所の関係部局との調整を行い、市長、副市長から了解を得て、パブリックコメントを経て公表するものとなります。

今お示ししているのはA3判ですが、実際にはA4判の冊子になる予定です。ですから、見開きのA4判の冊子のイメージでごらんいただければと考えております。

それでは、早速、ご説明に移らせていただきます。

まず、表紙にあります「自然と人とが共生する社会を目指して」ですが、こちらが円山

動物園基本方針ビジョン2050が目指す将来像でございます。

それでは、表紙をおめくりください。

左上の表紙裏と書いてございまして、枠が書いてございますけれども、最終的には白紙になる可能性もございます。そして、右の市長挨拶は、今は空欄ですけれども、ここには策定に至った背景などを記載する予定です。

続きまして、はじめにです。

ここもまだ空欄ですけれども、先ほどご説明いたしました生物多様性に係る世界的な背景、また、2015年9月に国連で採択されました持続可能な開発目標SDGsなど、世界的な背景を記載する予定です。そして、その下の各種計画等との整合性については、世界的な背景や札幌市の環境関連の計画との関係性について記載する予定です。

次に、右に移っていただきまして、目次です。

円山動物園の目指す未来、基本理念、支える取り組み、実現するためという大きく4点に分けております。

それでは、1ページをごらんください。

ここからはページ数に従ってご説明いたします。

まず、こちらには冒頭申し上げました円山動物園の目指す未来として、自然と人とが共生する社会を築くを掲げ、目標年次を2050年であることを記載しております。

その下には、その目標に向かって、まず、ステップ1として、自然環境の大切さを実感することから始まり、自然を守るための行動を促し、自然と人とが共生する社会を実現させるという目標達成までのステップを記載いたします。

また、この目標を達成するために、円山動物園が理念として掲げる2本の柱について記載しております。その2本の柱は、生物多様性の保全と、自然の大切さや動物の魅力を伝える教育についてです。円山動物園は、今後、保全と教育を理念として掲げ、自然と人とが共生する社会を目指していくということです。

続きまして、2ページをごらんください。

この取り組みの構図といたしまして、円山動物園を1本の木に例えて動物園の取り組みの位置づけをあらわしました。

今ご説明したとおり、円山動物園は保全と教育を2本柱に進んでいきます。ただ、これらに取り組むためには、何よりも動物たちが生き生きとしていることが重要です。そのため、このイラストでは、動物が精神的、肉体的にも十分健康で幸福である動物福祉を根幹に据え、保全と教育に重点を置いて、調査・研究、リ・クリエーションにも外部と連携して取り組み、自然と人とが共生する社会を築き上げることを表現しております。

続きまして、3ページをごらんください。

先ほど申し上げました保全と教育のうち、保全についてです。

保全につきましては、世界的視野を持った保全活動と身近な地域の保全について分けて記載しており、ここでは、世界的、世界規模での保全活動への取り組みについて記載して

おります。

まず、動物の生息地の保全についてです。

我々動物園といたしましては、世界中の生物多様性の保全に取り組みたいところですが、それは物理的に不可能です。ただ、円山動物園で飼育している動物については、その動物を介し、生育環境の保全を訴えるなど、保全活動にかかわることができます。

また、それだけではなく、左の二つ目の丸にありますように、実際に生息地に赴き、現地での保全活動を展開していく必要があります。

このためには資金が必要です。ただ、円山動物園は札幌市の市税で成り立っておりますので、そういった税金を国外の動物の生息地の保全に活用することには市民理解がなかなか得られないと思います。そこで、右の二つ目の丸にありますとおり、活動資金の獲得にも努めることを記載いたしました。

続きまして、4ページをごらんください。

生息地での保全活動も大切ですが、動物園である以上、動物園において、希少種だとか絶滅危惧種の飼育や繁殖にも積極的に取り組みまして、生物多様性を維持していく必要がございます。また、題の下にもありますとおり、無駄なエネルギーの使用を抑えるなど、地球環境の持続可能性に配慮した活動もしていかなければいけませんので、そういったことを記載させていただきました。

続きまして、5ページをごらんください。

3ページ、4ページでは、世界的視野における保全活動について記載しましたが、ここからは身近な地域の生物多様性の保全についてとなります。

世界規模の保全活動については、飼育動物種に限られる一方、北海道、そして札幌市の動物園としては、こうした身近な地域への生物多様性の保全は飼育動物に限らず行うべきと考えます。そこで、5ページの冒頭にごございますとおり、飼育展示する動物種だけではなく、地域全体の生物多様性の保全に取り組み、地域の中核を担う保全活動センターにという目標を掲げました。

そして、6ページの円山動物園の周辺環境の写真にありますとおり、皆様もご存じだと思いますけれども、円山動物園は、人が暮らす都会部に隣接しながらも、円山原始林を初め、豊かな自然が残されております。その写真の上の丸に記載がありますとおり、こうした自然や自然環境を最大限活用し、市民とともに地域活動の拠点として保全を進めてまいりたいといったことを記載させていただきました。

続きまして、7ページをごらんください。

ここからは、2本柱のうち、教育についてです。

教育につきましても、保全と同様に、世界的な観点からと身近な地域に着眼したものに分けております。

まず、世界的視野に立った環境教育の取り組みについてです。

我々がこうした日常生活を送れるのも地球環境があつてこそです。ただ、7ページの最

初に記載しておりますとおり、遠く離れた地域で起こっている地球規模の環境問題はなかなか実感することができません。しかし、動物園では世界各地の野生動物を飼育、展示しております。だからこそ、世界の現状、そして保全に必要性を伝える発信基地となることができます。

地球からのメッセージの左の一つ目の丸にございますとおり、動物園にいる動物たちは地球からのメッセージを伝える大使という位置づけでございます。そして、二つ目の丸にありますとおり、こうした飼育動物を通し、本来の生育環境に思いをはせ、地球環境の問題についても伝えてまいりたいということを記載しております。

さらに、8ページには、動物園に訪れたことをきっかけとし、野生動物に興味を持っていただいたり、ひいては現地での活動への参加を促すなど、動物園が生息地とつなぐ役目を果たしてまいりたいということも記載しております。

続きまして、9ページをごらんください。

こちらは、地域に着目して記載しております。もちろん、地域におきましても地球規模の環境保全について伝えてまいりますけれども、どちらかというところでは札幌や円山といった地域に貢献するという意味を込めております。

一つ目の丸にありますとおり、当たり前ではございますが、動物園では生きた動物を展示しております。その動物の姿、声、においを実際に感じることで、本当の生命を実感してもらうことが動物園としての大きな役割でございます。

また、右上の丸に記載しましたとおり、飼育個体ごとの飼育状況や生死情報についても丁寧に発信するなど、生命に対しての感覚を豊かにする伝え方を心がけていくほか、一番下の丸にございますとおり、動物への好奇心や親近感を引き出すため、動物との触れ合いの場もきちんと提供してまいりたいといったことを記載しております。

続きまして、10ページをごらんください。

多様なアプローチといたしまして、二つ目の丸に記載しておりますとおり、円山原始林を活用した屋外での自然観察会や学校教育で活用できる教育プログラムの開発も手がけていきたいと考えております。

ここまでの2050の大きな2本柱である保全と教育についてとなっております。

続きまして、11ページをごらんください。

ここからは、基本理念を支える取り組みといたしまして、調査・研究、リ・クリエーション、動物福祉、連携の四つを掲げました。

まず、調査・研究です。

一般の方には動物園と調査研究が結びつかない方も多いと思います。そこで最初に、動物園における調査研究の必要性を記載いたしました。

次に、動物園の姿勢といたしまして、全ての事柄について探求する姿勢を打ち出し、12ページには、さらに技術を磨いて研究成果を還元するための具体的な取り組み事例を記載させていただいております。

続きまして、13ページをごらんください。

リ・クリエーション 楽しい空間を創造するです。

最初にも記載しましたとおり、動物園で保全や教育の取り組みを進めていくためにも、まずは来園者の皆様が楽しく気持ちよく過ごしていただくことが何よりも大切だと考えております。一般的にレクリエーションという言葉は娯楽といった意味に捉えられがちですので、ここではあえてリ・クリエーションと記載させていただきました。

リ・クリエーションという言葉は再び創造するといった意味があると聞いたことがございます。動物園に来て、元気を回復したり、新しい考え方や意識が芽生えたりだとか、また、豊かな人間性を再創造していただきたい、そういった思いを込めてこの名称にいたしました。

そのためには、動物を楽しむという文化を根づかせるのところに記載がございますけれども、サインなどの展示物についても工夫を凝らしたり、動物園職員みずからが来園者を楽しませたりといった役割を担う必要がございます。

また、14ページにも記載しましたとおり、園内で気分よく過ごしていただくため、良質な憩いの空間、ハード的なものも目指すことが大切になります。

続きまして、15ページの動物福祉についてです。

全ての命に最良の暮らしをは、これまでお話しした取り組みを進める上でも動物を飼育する者にとっても欠かせないものであり、また、動物園の運営にとって根幹となるべきものでございます。

ご説明がおくれましたけれども、冒頭にご説明しました木のイラストがそれぞれの項目の左側に記載されております。この動物福祉は、根幹となるべく取り組みですので、幹の部分に色づけされております。

そして、動物福祉を第一に考える必要性にも記載しましたとおり、来園者に楽しんでいただくためにもこの取り組みは不可欠な取り組みだと認識しております。

具体的には、日ごろから環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングなどに取り組んでいくほか、万が一、動物が病気になったときには、16ページに記載がありますとおり、万全の医療体制を整えてまいりますといったことを記載させていただきました。

また、一言で動物福祉といってもその考え方は多様でございます。よりよい飼育体制を目指してのところに記載しておりますとおり、まずは職員が共通の認識を持てるように意見交換を重ね、動物園を挙げて飼育の質を向上させていきます。そして、その上の丸にございますとおり、動物福祉の取り組みが適切に進められているかどうかを評価するためにモニタリング手法を確立させ、ガイドラインを整備してまいります。

続きまして、17ページをごらんください。

これまでお話しした取り組みは、動物園だけでは到底達成することができません。ここでは、市民や民間団体、そして、ほかの動物園や水族館、学校、博物館、教育機関等々と連携した具体的な取り組みなどについて記載をさせていただきました。

続きまして、19ページをごらんください。

これまで、自然と人とが共生する社会を目指すために生物多様性の保全と教育の2本柱を理念として掲げ、それを支えるための取り組みとして、調査・研究、リ・クリエーション、動物福祉、連携についてご説明しましたけれども、ここからはそれを実現するために必要な項目を記載いたしました。

まずは、コレクションプランです。

これは、これからどのような動物種を飼育していくかの計画になります。円山動物園として生物多様性の保全や教育の目的を達成するために必要な動物種を計画的に飼育していく必要がございます。

1番の考慮すべき項目に記載がありますとおり、保全に関する取り組みの必要性や飼育の持続性、動物福祉の確保、教育・メッセージ等を考慮いたしまして、今後、推進種、撤退種等を決めていき、ここにはその主なものを掲載していく予定になっております。

これまでご説明しましたとおり、特に動物福祉の確保については重きを置いて選定していきたいと考えてございます。

続きまして、21ページをごらんください。

まだ具体的な記載はないのですが、ここでは保全と教育を推進していくための組織的なあり方や職員体制の長期計画について記載する予定になっております。

続きまして、22ページをごらんください。

ここには、我々動物園職員の行動指針を記載する予定になっております。

例として記載しておりますけれども、動物福祉を充実するために動物の立場に立った飼育・展示の充実、次に、来園者のおもてなしをするために、来園者へのおもてなしの充実、次に、動物園は個人で動いているわけではございませんから、チームワークについて、次に、情報発信、次に、我々みずからも環境に配慮して生活していかなければいけませんので、そういったものについて、最後に、コンプライアンス等について記載する予定になっております。

以上が円山動物園基本方針ビジョン2050のご説明となります。

○金子議長 これだけでもかなり大量の項目がありますので、少し順を追って、おさらいもしながら、ご質問等をお願いできればと思いますが、ここでスケジュールの確認をしておきます。

今後の流れについて、高橋係長から少し説明がありましたけれども、資料3-3で今後どういう流れでいくかの説明をお願いいたします。

○事務局（高橋調整担当係長） 資料3-3の今後のスケジュールについてです。

冒頭にもご説明いたしましたけれども、現段階では、これまでの検討部会や若手有志による職員プロジェクト等で議論を経て完成したものとなります。

本日の市民会議終了後、このビジョン2050を園内の役職者にてさらに精査してまいります。その後、このスケジュールにありますとおり、市役所の関係部局との協議を経て、

市長・副市長会議を経まして、札幌市としての案を完成させ、パブリックコメントを実施し、年内には公表したいと考えてございます。

○金子議長 まず、スケジュールについて確認をさせていただきます。

4月中に園としての案が確定されますが、この案を市の内部でもむとということで、そこで公表されることはないのですね。

○事務局（神経営管理課長） 公表はいたしません。今日の市民動物園会議につきまして は当然公表しますので、資料は外に出ていきますが、これはあくまでも案というか、たたき台という位置づけになり、正式に固まったものは8月のパブコメで外に出ていくこととなります。

ここで補足をいたします。

この下案をベースに動物園として最終的に固めていき、その後、札幌市の中でいろいろな議論があって、8月にパブコメをいたします。このように、市としての案が固まるのが8月の中ごろになりますが、それを経た後というか、パブコメの時期に合わせ、市民動物園会議で見ていただきたいと思っております。

恐らく、いろいろな意見があるかと思いますが、市民の皆様の声と同時に皆様の意見を受け取り、修正できるものについては修正し、最終的に11月の策定という手順を考えております。

○金子議長 ただ、この実施体制や行動指針など、かなり肝になる部分についてはこれから記載されていくということですよ。また、具体的なアクションプランや行動計画に当たるようなものについて市民動物園会議としてお話を聞けるのは今日だけになりますね。

○事務局（神経営管理課長） そうですね。

○金子議長 市に上がっていく案について、こういうものも盛り込んでどうかという皆様のご意見を聞いて、動物園が市の中で検討するための案をつくるたたき台に盛り込むのは今日が最後ですね。

○事務局（神経営管理課長） そういうことになります。

○金子議長 もし追加があれば、別途、お伝えするということになりますね。

こちらについては検討委員会に随分ご苦労いただいてここまで来ているものですが、検討委員会の委員長をされました吉中委員から補足的なコメントがありましたらお願いできますか。

○吉中委員 苦労といいますか、私自身としてはとても楽しく検討部会に参加させていただきました。

前回の市民動物園会議で検討部会が始まりましたという話をしたと思うのですがけれども、その後、先ほど高橋係長からご説明があったとおりでして、私から補足するようなところはほとんどありません。

私自身として、こうなっていけばいいなと思いながら検討部会の皆さんの意見を聞きつつ進行していこうということで考えていたのは、一つに、今回ごらんになっておわかりの

とおり、タイトルに2050と入っているところが前回と大きく違うところです。

最初は、どのぐらいのタイムスパンで考えればいいのでしょうかというような話がありました。2020年という二、三年で来てしまいます。では、2030年、2040年、あるいは、もっと先にしようかなど、いろいろとあったのですが、30年ぐらいのスパンで見ると、そう夢物語でもなく、なおかつ、余り現実にとらわれず、好きなことを発想できるのではないかということがあり、2050が出てきたのかなと感じています。

さらに、先ほど高橋係長からご説明があったとおり、グローバルなもので2050年を目指しているものがあり、それにテーマとして合うこともあり、自然と人とが共生する社会を2050年までにつくりましょうという世界の目標とうまく合えばいいなということとこういうタイムスパンになったのかなと思っています。

検討部会では、本当に皆さんからいろいろな意見をいただきつつ、動物園にこの形にまとめていただきました。3月12日に最後の会議が開かれて、それからまたさらにバージョンアップされております。本当にご苦労されたと思います。どうもありがとうございます。

2050年という30年後ぐらいに一体どういう動物園であってほしいのかというイメージを描いた上で、とはいっても、今日から始めなければ2050年に間に合わないのですよということで、どういう取り組みを進めていこうかという議論をしてきました。

検討部会では、私も動物園にそれほどかかわってきたわけではないこともあり、机上の空論にならないように気をつけました。中には動物園学を専門とされている獣医の福井副委員長もいらっしゃいましたし、小菅参与にも要所要所でいろいろなご意見をいただいたりしながら進めてきました。ただ、どうしても動物園の現場を知らないで話をしてもしようがないということで、先ほど高橋係長からご説明があった職員プロジェクトで議論されていることを参考にさせていただきつつ、その中身を検討部会で説明していただいて、また、検討部会で夢のような話をしていることも職員プロジェクトにフィードバックしていただくなど、お互いにこの案を見ながらつくってきました。

現場で働いていらっしゃる方々にとってみると、すぐ目の前の課題がいっぱいあったり、あるいは、現状の体制を見たらこんなことは到底できないよ、何を夢みたいなことを言っているのというようなことで現実的な案が出てきたこともありました。そういうときに、もっと長い目で見たら、あるいは、広い目で見たらこうなのではないですかという議論ができたので、うまく職員プロジェクトと検討部会で並行して検討が進められたと思っておりますので、よかったのではないかなと思っています。

これが検討部会に携わらせていただいた感想です。

これから動物園の中でさらにこれを精査していかれ、また、市役所の中でいろいろな調整が始まるということですが、そのときに、現実的な制約や現状の中、すぐにはできないよねということがいっぱい出てくるかと思えます。でも、検討部会では、それを踏まえた上で、もうちょっと長い目で、長期的な視点で、さらにいえば、理想を求めるよう

な視点で考えていくことが大事なのではないですかという議論をさせていただきましたので、そういうことをぜひこれからも検討の中で生かしていただければと思っております。

○金子議長 かなりご苦勞されてつくり上げてきたということがわかりました。

一番最初に高橋係長からお話があったとおり、検討部会は、ここに書いております委員の方々、主に外部の方々で委員会が構成され、5回開催されたわけです。また、それとは別に、職員プロジェクトとして、動物園の職員の方々で、これまでに何と21回も開催されてきたわけですが、そういう検討の結果がここに凝縮されているのです。

ただ、まだ完成版には至っておりませんので、現時点のビジョン2050を見ていただいて、ぜひ市民動物園会議の委員の皆様からアイデアをここに足していただければということです。

ここで本体に戻ってください。

まず、2枚目のはじめにあって、ここにビジョン2050と各種計画等との整合性があります。また、右側に目次があり、四つの大きな項目に分かれております。まず、円山動物園の目指す未来で、1ページと2ページに取りまとめられております。次に、円山動物園の基本理念で、3ページからの保全に関するもの、7ページからの教育に関するものです。次に、基本理念を支える取り組みで、調査・研究、リ・クリエーション、動物福祉、連携という四つの項目があります。最後に、実現するため、コレクションプラン、実施体制、行動指針というものです。

議論を全体とするとなかなか難しいと思いますので、四つの大きな項目を一つずつ分けてご意見を賜りたいと思います。

まず、Iの円山動物園の目指す未来についてです。

ビジョン2050の骨格になるところですが、円山動物園ビジョン2050、基本理念として、取り組みの構図という1ページと2ページについてご質問やご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○高井副議長 まず、これを作成した皆様の努力に大変感謝いたします。

私からのコメントは、まず、2ページの木のところの周辺の連携機関をもうちょっと整理したほうがいいのではないかとということでもあります。

説明を横に置いてぼんぼん言いますと、まず、保全のところには研究機関がありますが、これは調査・研究の市民団体のところに研究機関を持ってきて、保全のところの2機関は研究機関にかえて行政を入れて、他の動物園のところを国内外の動物園に変えてはいいかかと思えます。

次に、教育の横には企業と教育機関とありますが、企業はリ・クリエーションの下に持ってきて、かわりに左側にある市民団体を企業の場所に入れるべきではないかと思えます。

それから、リ・クリエーションの下にある学校は、教育機関とかぶるので、削除していいのではないかと思えます。

さらに、リ・クリエーションの横にある博物館は、博物館・公園としてはどうかと思

ます。

そして、左下の市民は、上の地球や地域とかぶるので、削除していいのではないかと思います。

なぜそう思ったかですが、後ろの部分の細かな文章から出てくるキーワードを拾い上げていったほうが符号がいいのではないかと思いますからです。

また、後で申し上げますが、後ろの細かな文章の中で市民団体のことを民間団体といっていますので、市民団体にするか民間団体にするか、どちらかに用語を統一したほうがいいかと思えます。

○金子議長 この構図の機関の位置などを再整理すべきということですがけれども、このフレーム自体についてはいかがですか。

○高井副議長 非常にいいと思えます。

○金子議長 戻りますけれども、副題として、自然と人とが共生する社会を築くとあります。自然と人とが共生する社会を目指してというのは、表紙のタイトルと違うのですね。

1 ページの一番最初の円山動物園ビジョン2050というところで自然と人とが共生する社会を築くことを2050年に向けてのビジョンとしますとなっておりますけれども、ここについてはどうでしょうか。

○事務局（神経営管理課長） 目指してと築くというところですね。

○金子議長 同じかなと思って読み始めたら違っていたのですね。

○事務局（神経営管理課長） 2050年の目標ということで築くという強い言い方をしているのが1ページです。ただ、今、金子議長から指摘された表紙の社会を築くということでもいいのではないかということですね。

○金子議長 統一したほうがいいのか、あえてこういうふうにしたのか、言葉の意味するところが同じなのであればいいのですけれどもね。

このビジョン2050は、木の苗から稚樹があって大きな木になるというステップは、すごくわかりやすいというか、ビジュアルでいいなと思えますけれども、自然環境の大切さを実感して、行動して、実現するというステップを踏みますというのはすごく気に入っていますけれども、ご意見があればどんどん出していただければと思いますが、いかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 それでは、ここはよしとして、基本理念についてです。

保全と教育という二つに分けて構図をつくっているということですがけれども、これについてはいかがですか。

○後山委員 市民の中にはなぜ2050なのかと思う方がかなりいるのではないかと思います。私は2050年にいないし、見られないしという人がひょっとしたら出てくるかもしれません。

とっても素晴らしいことですがけれども、なぜ2050なのかです。これだけのものをす

るには30年かかるのは当たり前なのですが、そういうことをもっと簡単に付け加えてあげると、もっと溶け込んでくれるのではないかと思います。

○金子議長 なぜ2050なのかは「はじめに」に書かれるのですか。

今、吉中委員からご説明がありましたけれども、理由についてはいかがですか。

○事務局（神経営管理課長） 世界的な背景を初めのほうに書き、そういった話をして、なぜ2050なのかをここで説明し切れれば良いと思っております。

先ほど吉中委員からの話のとおり、まさに2050という捉え方はそういうことですし、では2050年はどういうものなのかということであれば、先ほどの生物多様性国際戦略でもそういった目標が出ているということもありますので、そういった中で説明はできると考えております。

○金子議長 考えたら、2050なら僕もいないですね。中本委員は問題なくいますね。

2050という数字に対してはぴったりにきていますか。

○中本委員 私は22歳なので、2050年には45歳ぐらいになっているかと思います。今、大学生や新卒の私たちの世代が中心になっていくのが30年後であり、中心となる世代も結構変わっていると思うのですけれども、そこまでを見据えて今回のビジョン2050を立てたというのは、すごいちょうどいいスパンだと思いました。

○森田委員 保全、教育、動物福祉、そして、リ・クリエーション、調査という形はよろしいのですが、吉中委員が冒頭におっしゃっていましたが、僕としてはここに将来の夢があればと思います。

動物園ですから、確かに動物福祉が柱になるのはわかります。過去、動物が亡くなったということもあり、今回、支柱にしたのだらうと思います。でも、夢が少しあったほうが良いと思うのです。

動物の命を守り、飼育をしなければいけないのは当たり前の話ですが、夢というものです。吉中委員から委員の中でもそういうお話が出たということでしたが、そういう部分を入れてはいかがでしょうか。

私は2050年にはおらず、孫の時代になりますけれども、そのときの夢を入れておくのです。では、その夢というのは具体的に何だと言われても困りますし、ビジョン、夢、リ・クリエーションもその中に入ると思うのですけれども、そういうことも多少入れていただければありがたいです。

そして、先ほど高橋係長が言ったように、自治体の予算では世界に発信することがなかなかできないとありました。でも、よく考えてください。札幌市は200万人の国際都市であり、一般の都市とは違います。また、北国の動物園としてこれだけの形があることは世界にも誇れると思うのです。そういうことで、札幌市の円山動物園を世界的に発信していくことも決して遠慮しないでいただきたい、そういう思いが市民としてありますし、札幌市の本当のすばらしいまちを保全とともにやっていくことを項目の中に取り入れていただければ、我々も安心してあの世に行けるのです。

38年後もそんなに極端に札幌市の人口が減らないという統計結果も出ていますが、札幌市の魅力も同時に発信していくということで世界から注目され、協力されるかと思えます。ですから、札幌市が積極的に野外の保全のためにということをしてPRしていくことを書いていただければ大変ありがたいと思えます。

小菅参与、お願いします。私と同じ団塊の世代ですが、この先、未来のある子どもたちのために円山動物園を今以上にすばらしい動物園にしていくことが我々の責任だと私は思っています。大上段から構えたような言い方をして大変申しわけないのですが、それが我々大人の責任だと思っていますので、未来の子どもたちの夢もつかめるようなものも考えていただければありがたいなと思えます。

○金子議長 とてもすばらしいご意見だと思います。

今、小菅参与のご指名がありましたけれども、オブザーバーとして検討委員会に入っていておりましたので、コメントをお願いできますか。

○事務局（小菅参与） 非常に先を見た構想を動物園自体が持っていることを初め、札幌市は、多くの市民と一緒にあって、動物園の職員も一緒にあってつくっていける市なんだぞということでは非常に誇れることだと僕は思います。一人の人がわたわたとつくって、これでやるぞと旗を立てるわけではないわけです。ですから、円山動物園のこの取り組みは本当にすばらしい取り組みだと実感しています。

もしこれを2050年に達成したとしたら世界から評価されると思えます。それぐらいのボリュームのあるレベルではないかと思うのです。それこそ、この程度かと思われるものではないのです。本当にできるのかというぐらいの思いを乗せて、それに向かって突き進むという姿勢そのものが貴重なもので、まさにこれこそ夢そのものだと思います。

現状を見て到達できるものを目標にしてしまうけれども、これは全く違います。本当にこういう旗印を掲げ、これに向かって動物園が、さあ、市民の皆さん一緒にやりましょうと言っていける市というのは、今おっしゃったとおり、世界に誇れる市ではないかというような気がしています。

私は世界の動物園にはそんなに行っていませんけれども、シンシナティの動物園で会議があったのですね。旭川市なんかは出してくれませんが、日動水協から行けと言われて、出してもらったことがあるのです。そのとき、市のほうへ行って、シンシナティの特徴を教えてくださいと聞いたら、シンシナティには世界に誇れるものが三つあると言われました。一つはシンシナティ・レッズ、一つはコンベンション機能、一つは世界のシンシナティズーだと言ったのです。

ですから、まさにおっしゃったとおりなのです。札幌市が世界に向かって誇れるのは札幌円山動物園だと言えるぐらいにまでなっていく、これがちゃんとできればそのようになるのではないかと思います。ですから、まさにこれは大きな夢そのものだと思います。

先ほど中本委員がおっしゃったように、中本委員が40歳や50歳になって、お子さんを連れて、実は私がこの構想をつくったのよと子どもたちに言えるというのはすばらしい

ことだと思います。ぜひそのようになればという思いで参加させていただきました。

○金子議長 僕も本当に素晴らしいものにかかわらせていただいているということは非常にありがたいことだと感じております。

それでは、Ⅰにつきましては、今のご意見を入れ込むとして、目指す未来についてはほかによろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、Ⅱの円山動物園の基本理念についてです。

まず、1として生物多様性を保全するですが、3ページと4ページでは世界に向けての保全活動を展開することについて、5ページと6ページでは、地域のためにということで、地域の中核を担う保全活動センターにということが書かれております。

ここに関してご意見やご質問等をお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

この項は、動物園で飼育された個体の飼育環境をどうするかではなく、その動物が生息をしているもともとの生息環境の保全に携わりますということで、日本、あるいは、世界の動物園の中でもない取り組みをメーンの方向に上げており、非常に夢のある基本理念ではないかと思えます。

しかし、高橋係長が触れられたように、お金を海外の生息環境の保全に使うことにはなかなか難しいところがあるということです。その一方、小菅参与から、これこそが札幌を札幌らしくさせる夢のある方向ではないかというお話もありました。

ただ、市の中で予算をとるときや動物園の基本構想をもむときにいろいろと意見のあるところかなと思うのですけれども、皆さんはいかがでしょう。僕としては、これが円山動物園の基本構想のコア、柱の部分だということでぜひプッシュしてほしいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、動物園の飼育個体だけではなく、生息地を守ることをビジョンの大きな柱にさせていただきたいということでした。

次に、地域のほうについてです。

保全活動センターにという副題がついておりますけれども、研究センターとか何とかセンターみたいな組織やセクションを新たにつくるというようなことがあるのでしょうか。

今は、具体的な方策やアクションプランというか、実施体制についてはまだ書かれていません。また、これは基本構想なので、仕方ないと思うのですけれども、ハード的なものや組織的なこと、あるいは、予算的なもの、例えばホッキョクグマ館をつくりますというような具体的なものは書いておりません。実施体制のところにもそういったことが盛り込まれるのかなという気もしますけれども、保全活動センターにと書いてあるので、生物多様性研究センターを動物園の中につくりますなど、少し具体的なものがあったらいいのかなと僕は思っていました。

そういうことも含め、保全という項目についてはいかがでしょうか。

○武田委員 言葉が足りないかもしれないのですが、同じようなことを思っていました。

質問になってしまうのですが、これができ上がって、冊子となったとき、市民にはどういったレベルで手渡したりされるのでしょうか。

例えば、地下鉄駅構内に置いて、市民が手にとれるのであれば、委員がおっしゃったように、私たち世代がわかるよう、実際にどういう動物を保護してこんなことがあったとか、レッドリストはどういった動物なのかなどがわかればと思います。

30年の間に変わるので、それを詳しく書くのは難しいかもしれませんが、身近なエピソードというか、動物の写真などが入ると、ぐっと心に入ってきて、動物園が変わっていくのだなということが伝わるのかなと思いました。

専門知識がない人からすると最初の1ページの文章を読んだときに、うっ、ちょっと難しいぞときっと思ってしまうのかなと思ったのです。ですから、私たちにもわかりやすいようなエピソードであったり、私はすごく感動したのですが、シロクマのエピソードみたいなものが少し盛り込んであると読み進めやすいかなと思いました。

○金子議長 まさに僕もそういうことを感じていました。

これだけでも、多分、30ページぐらいの結構なものになりますよね。だから、市民の人たちがぱっと開けるパンフレットやチラシ的なものでもいいと思いますが、できた暁には、もう少し内容的にもわかりやすく、そして、コンパクトになっているような概要版的なものがあったらいいのかなということですね。

ほかにいかがでしょうか。

○中本委員 小見出しの下に、飼育、展示する動物種だけでなく、生態系レベル、種レベル、遺伝子レベルという全てのレベルにおいて、地域の生物多様性の保全の取り組みますと5ページにありますね。

生態系レベルについては6ページの頭のところで詳しく書かれているのですが、種レベル、遺伝子レベルについて、種レベルは絶滅しそうな動物を保護するのだなと思いますが、遺伝子レベルというのはどういう話があるのでしょうか。

○事務局（小菅参与） 遺伝子レベルというのは、例えば、雄と雌がいて、そこから子どもが生まれ、その子どもが100頭いたとしても、遺伝子プールは小さいですね。

遺伝子レベルの多様性というか、主を維持するためには、例えば100個体いたとしたら、それぞれの持っている遺伝子が非常にバラエティーに富んでいるということが必要になります。そういう意味では、遺伝子レベルの多様性を持たせ、種レベルでも多様性にして、そのネットワークである生態系レベルでも多様性を目指すという意味です。

というのは、今、動物園で一番問題になっているのは、遺伝子レベルの多様性です。どうしても動物園だと飼育する個体数が限られてくるのです。それは一園では到底できないので、同種を飼っている幾つかの動物園と協力し、遺伝子レベルでの多様性を保つていこうという活動をしているのです。そのために、いわゆる戸籍簿のようなスタッドブックというのですけれども、私は誰と誰の子どもですよと、三、四世代前からの系統図を書ける

ように、日本ばかりではなく、世界中の動物がリストアップされているので、そういうことを考えながら遺伝的な多様性を維持していきましょうということです。

○中本委員　すごくおもしろい話だったので、ぜひ一般の方でも見られるように盛り込まれたらと思います。

○金子議長　ほかにいかがでしょうか。

○吉中委員　1点補足というか、参考になる話をいたします。

検討部会の議論の中では、生態系レベル、種レベル、遺伝子レベルという全てのレベルにおいて生物多様性の保全に円山動物園として取り組んでいきますというのは、地域だけではなく、世界も含めてという話だったかと思います。

先ほどは何で2050年なのかという話もあったのですが、2050年に自然と共生する社会をつくるというグローバルな目標の生物多様性戦略計画があるのですが、その中でも、生物多様性というのは実は全てのレベルを言うのですと言われていました。

そこで、今回のバージョンでは、地域の保全の中の説明のところ、生態系レベル、種レベル、遺伝子レベルという全てのレベルにおいてと書いてあるのですが、私の記憶では、議論していた中では、むしろ、1ページ前の生物多様性を保全するという大きな目的の中にここで言っている生物多様性というのは全てのレベルなのではないかというのを言った上で、それを世界規模でも地域でも両方で実現していくのですというような位置づけにするということだったかと思います。

小菅参与がおっしゃったように、飼育個体群での遺伝子管理というのは、4ページの右上にも少し書いてあるので、むしろ、5ページの全てのレベルにおける保全というのは前に持ってきて、もう少し上位に置いたほうがいいのかなという気がしました。

○金子議長　それでは、その辺も踏まえて、またもんでいただければと思います。

次に、次の教育に関して、7ページから10ページまでについてはいかがでしょうか。

ここには、円山動物園の特徴のほか、円山の原始林ともつながっているというようなこともあって、野外で自然観察会を行うなど、動物園の中の動物だけではなく、自然の中に出ていって勉強をしましょうというようなことが入っています。また、学校教育で使える教育プログラムをつくりましょうということです。普通は教育庁でやるようなことかなと思いますけれども、そういうものを動物園が積極的にやっていくということで、非常に新しく、すばらしい取り組みではないかと思います。こういうソフト事業をうまく組み込み、動物園の基本理念の柱としていて、教育についても非常に新しいものがこの中にちりばめられているのかなと思っていますが、いかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長　何かありましたら、メールでもご連絡をいただければと思います。

続きまして、Ⅲの基本理念を支える取り組みについてです。

調査・研究、リ・クリエーション、動物福祉、連携とありますが、一つずつやっていきましょう。

まず、調査・研究についてです。

今の基本理念を実現するため、それを支える取り組みとして調査・研究ではこういうことをしますということがここに書かれておりますが、これについてはいかがですか。

これは、博物館の機能とも相通じるところがあるかと思うのです。博物館も、ただ物を展示するだけではなく、その物、あるいは、動植物について、例えば自然史博物館なんかはそうですが、調査・研究を行うことが博物館の大きな機能なのです。これを円山動物園としても実施していくというのは非常に先進的な取り組みではないかと思えます。

ただ、これを市でやるとなると、かなり厳しいでしょうか。

○事務局（加藤円山動物園長） 先ほどの地域の保全活動センターの話もありましたけれども、今、環境教育をやっている部署や生物多様性をやっている部署、そして、私どもはばらばらです。ですから、そうした組織のありようでいいのかどうかも含め、内部では議論していかなければいけないのかなと思えます。

○金子議長 そして、今構想されている博物館にも学芸員や研究者も入ってくると思いますが、そういったところとの連携も重要な検討項目になるのかなと思えます。

ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 続いて、リ・クリエーションについてです。

これは、レクリエーションではなくてリ・クリエーションといったところが新しいアイデアかなと思えますけれども、こちらについてはいかがでしょうか。

○高井副議長 2点あります。

まず、リ・クリエーションという造語についてですが、大事なミッションステートメントみたいなところで造語を使っていいのかというちゅうちょがあります。

リ・クリエーションの場としての動物園の1行目にリ・クリエーションは再び創造するという意味がありますと書いてありますが、ここはリ・クリエーションという言葉を作り直すという再定義する程度にしたほうがいいのではないかと思いました。

というのは、気になって、辞書を幾つか引いてみて、研究者の英和大辞典だとかも見たのですが、やはり、再創造という意味は見当たらなかったからです。元気回復というものが多く出てくるのです。

それから、言葉としては「リ」と「クリエーション」で分けられるけれども、語尾的にはレクリエーションという中世フランス語で、さらには、ラテン語のレクラチオから来ているということであり、切り離した言葉は存在しないようですので、慎重になったほうがいいと思えます。

逆に、こう再定義しますと言ってしまえば、別にリとクリエーションを切らなくても、レクリエーションのままでも通用し得るかなと思いました。

二つ目に、見出しの下にある「保全や教育の取り組みを最大限に進めるためには、みんなに楽しく気持ちよく過ごしてもらえることが何よりも大事です」というところについて

です。

「何よりも」という最大級の言葉というのは、次の動物福祉のところにも出てくるのですけれども、慎重になり、削除したほうが良いと思います。

というのは、次の動物福祉のところでも何よりもと言っていて、どちらなのかという話にもなりかねないからです。

あとは、楽しく気持ちよく以外にも、バリアフリーの話が後で出てきますけれども、安全にみたいなことも入ると思います。ですから、とりあえず、「何よりも」を削除し、場合によっては「安全に」などを加えることも考慮していただければと思った次第です。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、Ⅲ－３の動物福祉、全ての命に最良の暮らしをというところについてですが、いかがでしょうか。

○高井副議長 先ほどの続きで、最大級の言葉は慎重に使ったほうが良いということです。

例えば、動物福祉を第一に考える必要性の1行目に、「何より来園者に」と出てくるので、これはとりあえず削ったほうが良いのではないかと思います。

それから、動物福祉を第一に考える必要性という大きな表題は、マレーグマを初め、さまざまな問題を踏まえた動物園の非常に謙虚な姿勢をあらわしていて、よいと思うのですが、第一にとまで言い切るのではなく、動物福祉を重要視する必要性に変えたほうが良いのではないかと思います。

なぜならば、動物福祉は展示に先駆けて重要で、健康な動物を見せるということはもちろんですけれども、必ずしも第一ではないと思います。例えば、人の命の安全は動物福祉よりも優先されることがありますし、この後にも出てきますけれども、動物については、注射や手術など、そうした措置をせざるを得ないのです。また、後にも書いてありますけれども、動物福祉の概念は多様だと書かれているのです。そうした中で最善を尽くすということが動物福祉の趣旨だと思うので、「第一に」という文言も「重視する」や「大切に」という言葉にしたほうが良いのではないかと思います。

また、言葉の問題ですけれども、「最良」という言葉が良いのかどうかです。

最善というのは言えると思うのです。これは後に出てくる「可能な限り」や「最大限に」「できるだけ」というニュアンスからすると、「最善」のほうが「最良」よりもいいのかなと思いました。

○金子議長 高井副議長からご指摘がありましたことについては、なるほど、そうだなと思いました。言葉の定義については、かなり難しいところもあるかと思いますけれども、全体を通し、きちんとした言葉遣いをお願いできればと思います。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 最後に、Ⅲ－４の連携についてです。

連携先として、市民や民間団体、他の動物園・水族館、学校、博物館、教育機関、大学や研究機関、民間企業、海外というような項目に分かれております。

具体的なところとしては、最後の海外のところでは、世界動物園水族館協会のWAZAやアジア動物園水族館協会のAZAなど、国際的な機関と連携をしますというようなことが割とはっきり書かれています。

ただ、実施体制等のところでもう少しプログラムをちりばめたほうがいいのかと思います。今後、これは市の中でいろいろ協議をしていく上でかなり難しい問題も出てくるかと思いますが、絵に描いた餅だけを出していても、総論賛成で終わってしまうので、各論部分をきちんと目に見える形で書くことが必要なのかなと思います。

今の段階では公開できないということもあると思いますが、市の中で協議をする段階においては、具体的な施策レベルのものを盛り込んだ形で協議をお願いしたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○高井副議長 2ページの葉っぱの図のところでも申し上げたこととかぶるのですが、2ページの図の中の研究機関と書いてあるところに行政と入れるべきだと申し上げました。それで、連携のところでも、札幌市の動物園について、公立の動物園であり、民間の動物園とは違うミッションとは何なのかをやはり入れるべきできないかと思いました。

ですから、小見出しとして、「行政と」という文言を加えて、「行政と」の中に、市民や民間団体とのところにある丸の3番目の「生物多様性や保全を掲げる札幌市と足並みをそろえ、札幌市の環境保全や市民参画の推進、人材育成に貢献します」という文章を「行政と」の中に加えてはいかがでしょうか。

かつ、学校、博物館、教育機関との中の丸の一つ目の博物館を「行政と」のほうに束ねると、円山動物園を札幌市が運営することのメリットであり、ミッションというものが明白になるのかなと思います。

環境というような政策的な意味、人材育成という意味、それから、札幌市の持つ博物館や図書館や福利厚生、公衛、そうしたものと連携をとるということで打ち立てるのは円山動物園のよいところを強調するものなのかなと思った次第です。

また、細かなことですが、学校、博物館、教育機関とのところの丸の一つ目のところです。小・中・高校とあるのですが、場合によっては、獣医師養成機関や動物関係の専門学校も含めてもいいのかなと思いました。

さらに、丸の三つ目の「教育機関、市民団問」は「市民団体」と誤字を修正するといいいのかなと思います。

それから、左側の「市民や民間団体と」というところは、2ページでは「市民団体」となっていたので、「市民団体」にするか「民間団体」にするか、用語を統一したほうがいいと思います。

○金子議長 ぜひご検討いただければと思います。

ほかにかがででしょうか。

○吉中委員　すごく共感するご提案で、全く同意します。

ただ、それを聞きながら思ったのですけれども、このビジョンは、今の案でいくと、裏表紙には編集・発行札幌市円山動物園となっているのですけれども、これはこうなるのですか、それとも、札幌市としてつくっていくことになるのでしょうか。

先ほど高井副議長がおっしゃった行政という中で、札幌市の中での連携はもちろん重要だと思います。これはどちらがいいという話ではなく、どちらにもいいところと悪いところがあると思うのですけれども、札幌市としてつくるのであれば、札幌市の動物園以外の部局で行っている、あるいは、これから行おうとしている施策をどうここに反映させていくかを考えなければいけないと思ったのです。それはまだこれからの作業だと思うのですけれども、一つの視点としてそう思いました。

これを札幌市全体でつくる、札幌市として目指していく、札幌市の動物園なのですとしてつくるのか、あるいは、やっぱり動物園という一つの塊として、動物園としてビジョンをつくる、動物園という塊で生きていくのか、どこかで真剣に考えたほうがいいのかなという気がしました。

○金子議長　発行者が誰かということですか。

○吉中委員　そうですね。これをつくる主体が誰かということです。

例えば、生物多様性国家戦略が国の戦略としてありますけれども、それは環境省が音頭をとってつくっているけれども、物としては政府として閣議にかけてつくるみたいな話だと思うのです。

それにより、いろいろな省庁がやっていることをうまく取り込めるところはいいことだと思うのですけれども、逆に、欠点としては、総花的になってしまい、焦点が絞られなくなり、ばらばらになってしまうということです。

このように、どちらにもメリットとデメリットがあると思うのですけれども、そのあたりの整理もどこかで必要かと思いました。

○金子議長　今の段階では、市として出すということですか。

○事務局（神経営管理課長）　札幌市として出していくことになりますので、これから市の中での協議が進んでいきますから、どこまでこれが生き残ってくるかというか、いろいろな攻防があります。

○金子議長　ほかにかがででしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長　それでは、最後の実現するためについてです。

コレクションプラン、実施体制、行動指針とありますが、実施体制と行動指針については、まだ〇〇というような状況ですし、コレクションプランについても具体的なリストがあるというわけではありませんが、コレクションプランについては、ここに書いてありますとおり、推進種、継続種、撤退種を選定するというところで、今後やめていく種もある、

やみくもにいっぱいふやすことにはなりませんというようなことを意思表示しているのかなと思います。

この考え方や、実施体制、行動指針について、こういうものを盛り込んでどうかというようなアイデア等がございましたら、この機会にぜひ出していただきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

○土田委員 内容については全く問題ないというか、こういうことなのかなと思って理解しました。

ただ、表題の「コレクションプラン」の「コレクション」という言葉についてです。

展示や動物を貸すなど、動物福祉と言っておきながら、物を貸し借りするかのような表現が散見されるのです。これでは、市民からすると、コレクションプランというのは宝物を集めるのかと思えるようなネガティブな印象もあったのです。

先ほど森田委員からも夢を子どもに与えるような重要なミッションについてありましたが、ここにはそういう言葉では書いていないので、言葉遣いをやわらかくできないかなと思いました。

学術的な部分はいくまでもいいのでしょうし、業界や動物園の中では展示というのは標準的な言葉なのかもしれませんが、ちょっと愛情が感じられない表現かなと率直に素人的に思いました。「コレクション」という言葉が気になったので、可能であれば市民目線のわかりやすい言葉に置きかえられませんかという意見です。

○金子議長 「コレクション」というのは一般的な言葉だということで進められ、ここに入っているのでしょうかけれども、市民目線からすると、チョウの標本をいっぱい集めて展示するようなイメージがすごくあるかもしれませんね。

先ほど武田委員からもお話があったように、市民目線で見たときには言葉遣いも厳しいところもあるかなというのは僕もそうかなと思いますので、用語の使い方や見せ方なども含め、動物園で検討していただければと思います。

ほかによろしいでしょうか。

○高井副議長 ②の飼育の持続性は、「飼育・繁殖の持続性」としたらいいのかなと思いました。

というのは、委員として学んだことですが、円山動物園にしかない品種が重要だというのは素人考えでもわかるのですが、もう一つとして、円山動物園以外にもあるのだけれども、ヨウスコウワニやヤドクアカガエルなど、繁殖に円山動物園が比較優位性を持っていて、ほかの園に対して貢献できる品種がかなり重要なわけですので、それをもっと強調してもいいと思ったのです。

そういう意味では、①にある丸ポツの二つ目の円山動物園として役割を背負うべき種かを②に移して、②の「飼育の持続性」を「飼育・繁殖の持続性」とすれば、①では希少種を何とかして守るという意味になります。そして、②は、必ずしも希少ではないかもしれないけれども、ほかの動物園に比べて円山動物園でこそ繁殖が得意であり、分業体制では

ありませんが、役割として担うといいのではないかと分けられるのではないかと思います。

ですから、丸ポツの二つ目の円山動物園として役割を背負うべき種かを②に持っていくとしたら、文章も「動物を持続的に飼育、繁殖させるために円山動物園が将来的にも入手、繁殖が可能であるか」みたいな書き方にしてはいかがかと思った次第です。

○金子議長 それでは、動物園でご検討いただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○矢野委員 まず、傍聴人がお一人ということで、非常に残念だなと思います。また、プレスの方も誰も来ていません。これは、コンセプトというか、非常に重要な話をしているのです。ですから、テレビでも流してほしいと思うのです。非常につらい時期を乗り越えてきたので、余計にそう思います。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

○八木委員 これだけの有識者の方が何十回も意見を重ねている結果なので、内容の一つ一つについては問題ありません。

ただ私は雑誌を編集している立場から申し上げさせていただきますと、この冊子は誰がつくっているのか、また、誰が読むのかが見えていないと思われま。

たとえば円山動物園の職員の方が同じ意識を持ちましょうという教則本的なものであればいいのですが、これが市民に向けてのものであれば、全然だめだなと思いました。

書いてあることは、文章や全てもすごく微々細々にわたっていて、非常に検討されたことがわかりますが、1項目ずつをただ並べられ、カラフルにデザインして、写真を並べているだけでは、まず読もうという気にならないし、頭の中に入ってきません。

どこを強調して、どういう流れにするか、どういった位置づけで、どう関連して、どういうふうにやっていくか、最初に図が少しあるだけで、読者にわかってもらえる工夫が何もないのです。

ビジュアルでは、今まで動物園で撮ってきた写真や動物の写真をただ並べているだけです。せっかくこれだけのいい意見があるにもかかわらず、内容が頭に入らないので、冊子としてきちんと編集をされたほうがいいと思います。

また、先ほど「何で2050年なのか」ということに対してのご説明ですが、やっぱり言いわけにしか過ぎず、それを文章化し、ただ並べても、市民の皆さんにとっては、「ああ、そうなのですか」としか言えません。

たとえば提案ですが、円山動物園は1951年に開園とされています。ということは、2050年は100年目です。「100年たって動物園がどういう形になっているのか」というビジョンを明示すればわかりやすいと思います。今は開園六十何年目だと思うのですけれども、過去の六十何年の間にどういうことが起こったのか、例えば、どういう種が絶滅したのか、あるいは、森が消えていたり、エゾシカがふえたり、オオカミが絶滅したり、いろいろなことがあったわけです。そういった歴史感もちゃんとないと、未来の三

十何年は描けないと思うのです。

この冊子をつくるための1年のスケジュールはあるのですが、1951年から2050年に向かってのもっと大きなスケジュールを出さないと、市民の皆さんがご覧になった時に「2050年でなければ、こんなに立派な計画は実現されないのだな」と納得できないと思うのです。

前の会議で小菅参与がおっしゃっていたことを思い出したのですが、北海道には四つの動物園があって、円山動物園はさしずめデパートです、とおっしゃっていたような気がします。それにならって、北海道における動物園として円山はどういう動物園なのか、帯広と比べてどうなのか、釧路と比べてどうなのかというのが何も入っていないので、動物園の計画としては立派ですけれども、これが円山でなければいけない理由が抜け落ちているような気がします。

2050年に円山動物園が札幌市の動物園として、北国の動物園としてどういうふうになっているのか、この前の小菅参与のお話を聞いていたら描けそうな気がしたのですが、そうした未来予想図のような青写真を市民に見せていただきたい。ただ文章を並べるのではなく、市民にとっても夢がもてる魅力的なパーク構想の青写真が描けていないといけないと思いました。

そんなわけで、全体的にはすごくいいことがたくさん書いてあるので、誰にどう見せていくのかを意識しながら編集することで、読む気になって将来的にも保存できる冊子になるはずですから、これではもったいないというのが私の感想です。

○金子議長 とても有意義な、本当に核心を突いたご意見だったと思います。

ぜひ、動物園としては、今の八木委員のご意見を検討していただき、素晴らしい案をつくっていただきたいと思います。

そのほか、全体を通してでも構いませんが、いかがでしょうか。

○高井副議長 八木委員の意見には非常に賛成ですし、開園が1951年というのは非常に素晴らしい指摘で、これは使ったほうがいいのではないかと思った次第です。

私の最後の指摘は、行動指針についてです。

できればビジョンと連携していたほうがいいのかなと思います。取り組みの構図の中で保全、教育、調査・研究、リ・クリエーション、動物福祉、連携という6項目を挙げているので、それに沿った形で行動指針もまとめてあると、まとまりがよりよいのかなと思います。

具体的にはまるかなと思って用語を組み合わせしてみたのですが、ぴったりはまりませんでした。でも、意識してみるとこぼれ落ちたものなども行動指針の中で拾うことができるのかなと思います。

○金子議長 そのほかはよろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 長時間にわたって、本当に素晴らしいご意見をありがとうございました。こ

の市民動物園会議のご意見を検討していただいて、動物園ではさらにステップアップした案をつくっていただければと思います。また、皆さんにおかれましては、今月中に案として確定するという事ですので、何かお気づきの点がありましたら、できるだけ早いうちにメール等で動物園にお送りいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、その他に移ります。

事務局からございますか。

○事務局（神経営管理課長） 貴重な意見をありがとうございました。

事務局から、次回の市民動物園会議の開催時期についてです。

先ほどご説明させていただきましたが、最終形ができ上がるのが8月か9月ぐらいで、それからパブコメを行う予定ですが、その時期を目途に、ことし9月ごろに市民動物園会議を開催したいと考えております。

今、まさにつくっているゾウ舎の竣工もその時期に予定しておりますので、次回の市民動物園会議では、前回のホッキョクグマ館をごらんいただいたように、ゾウ舎をごらんいただける機会を設けたいと思っております。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、戻って申しわけないですけれども、ビジョン2050につきましては、先ほど申しましたように、市民動物園会議としてのご意見は動物園に伝えさせていただきましたので、市民動物園会議としての審議は終了とさせていただきますが、その後、何かご意見があればぜひ伝えていただければと思います。

それでは、予定しておりました議題が終わりましたので、事務局にお返しいたします。

3. 閉 会

○事務局（加藤円山動物園長） 本日は、活発なご意見をありがとうございました。

いただいたご意見を反映し、内部で戦いたいと思いますので、今後ともご支援をよろしく願いいたします。

本日は、どうもありがとうございました。

以 上